

究

三年

画数 7
筆順 一、二、三、四、五、六、七
オ、ン キ、ユ、ウ
ク、ン きわめる

成り立ち



つるの先がとめられてそれから先にすすめない形をあらわし、ものごとが「きわまる」といういみをあらわした「九(14)」と、「穴」とを組み合わせて作った字です。外からではまったくわからない穴の中を「てっぺん」に「しらべる」ことをあらわした字です。そのことを「きわめる」といいます。

今は、「九」は「一のくらの」きわまった「このつ」のいみにつかい、「ものごとがきわまる」いみには「窮」の字をつかい、「ものごとをきわめる」いみには「究」の字をつかいます。

使い方

▽お釈迦さまは、究極の真理を究明するため、王子さまのみぶんをすてて、おしろをぬけ出しました。
▽すすむくんは研究心がつよく、わからないことがあるとそれをどこまでも追究します。

熟語例

▽究極 (ものごとをつきつめて行ってさいごに行きつくところ。いちばんおくふかいところ。「窮極」とも書きます。)
▽究明 (究め明らかにする。ものごとをてっぺんまで明らかにすること。)
▽究理 (真理を究明すること。ものごとの道理や法則を究めること。「窮理」とも書きます。)
▽追究 (明らかでないものごとを明らかにしようと、どこまでもふかくしらべること。わからないことをわかるまで研究すること。)
▽探究 (明らかでないものごとを明らかにしようと、探究すること。)
▽学究 (学問、研究につとめること。また、学問、研究につとめる人のこと。)

急

三年

画数 9
筆順 一、二、三、四、五、六、七、八、九
オ、ン キ、ユ、ウ
ク、ン いそぐ

成り立ち



人の形をあらわした「ク」と、手の形をあらわした「ヨ」と、心ぞうの形をあらわした「心」と、三つの字を組み合わせて作った字です。「急」は「及(ク)と、手の形をあらわした「又」とを組み合わせて作った字」とまったく同じいみの字で、「人に手をかけた形」です。前を行く人をつかまえようと「おいかける」ことをあらわしたものです。

だから、「急」は「人をつかまえようとおいかけるときの心」をあらわした字です。「いそぐ」心をあらわしたものです。

使い方

▽学校におくれそうになったので、急いで家を出ました。
▽ぼくが急いで、道を渡ろうとすると、どこかのおじさんが、「そんなに急ぐと、あぶないよ」といいました。

熟語例

▽急行 (急いで行くこと。「救急車が、事故現場に急行した」などというふうには、つかいません。また、電車やバスなどで、途中の駅をいくつか飛ばして、目的地まで早く行くものを「急行」といいます。)
▽急流 (急な流れ。水の流れが激しい川。「行く手に急流が待っていることを知った舟人は、舟を岸につけました」などというふうには、つかいません。)
▽急変 (急に変わること。とくに、急にようすが変わること。「病人の容体が急変した」などというふうには、つかいません。)
▽急用 (急な用事。「急用を思い出したので、もう帰らなければなりません」などというふうには、つかいません。)